

スーベニールオタルカン

- 物件名：スーベニールオタルカン
- 住所：入船1-1-1
- 電話：27-0077
- 所有者：協和総合管理株式会社
- 運営者：北海道観光物産興社 石橋英三(館長)
- 人員：11人
- 建物履歴：
 - 大正15年 戸出物産小樽支店として創建
 - 昭和30年以降 北海道通信電設株式会社が戸出物産小樽支店を購入
 - 昭和63年以降 協和総合管理株式会社購入
 - 平成5年 小樽メセナに賃貸
 - 平成5年 小樽市歴史的建造物指定
 - 平成11年 スーベニールオタルカンに賃貸

- ※北海道通信電設株式会社
 - 昭和30年 山本勉北海道通信電設株式会社創設
 - 昭和40年 道内一円からインドネシアに版図拡大し従業員800人
 - 昭和63年 関連会社北海道商事の倒産により整理

■外観

- ①窓 窓周りに垂直性を意識した意匠
- ②屋根 屋根に熱線を入れて融雪工事
- ③傾斜 建物が傾斜していたため、1階と2階の間両側から引っ張って固定

■内観

- ①鉄柱
 - 1階本館には、鉄製の円柱が並び、柱の上に肘木をのせ、2階の床組を支える。
- ②基礎固め
 - 基礎固め工事には大きな出費。既にショップとしての改築が前運営者によってなされていたため、間仕切りの撤去にともなう大きな出費は不要。
- ③運営上の出費
 - 空間のイメージに見合う調度品やスポットライトには大きな出費。また運営上常にトイレの清掃は欠かさず、アジア客に好評。
- ④継承部位
 - 基本的に吹き抜け構造は前運営者から継承し、煉瓦の壁や換気口や梁、そして鉄柱も建築時をそのまま継承。小樽の歴史的建造物にはつきものの大きな金庫もそのままディスプレイに。
- ⑤本館の梁
 - 大正15年建築時の梁をそのまま継承。
- ⑥煉瓦
 - 煉瓦館の煉瓦の厚さは約30cmの厚さにより断熱効果十分。
- ⑦窓枠
 - 煉瓦館の窓枠を鉄骨で補強。歴史的建造物に相応しいアレンジ。

■内容

北海道観光物産興社は観光化する北海道において、道の要請により半官半民で昭和35年に設立し、北海道初で北海道土産の卸業務を営む。建物所有者である協和総合管理からの紹介により小樽出店を検討し、硝子・オルゴールに次ぐ名物として「万華鏡」を考案。日本万華鏡協会の指導を受け、日本で2番目の万華鏡ギャラリーを設置。道内の観光施設に土産品を卸し、札幌市内11ヶ所に直営店を出店、小樽へは初出店。この建物に決定したのは、歴史的建造物であるから来て頂ける集客性と、異国情緒をを味わっていただく名所性を重視。

■コンセプト

観光客の来店が多いことから、会話を楽しむ接客を重視。



外観



店内



外観(赤煉瓦)



見上げた斜め角度もオシャレ



石の基礎に建つ鉄柱は創建時から

■客層

3割アジア客で推移し、「日本最大規模の万華鏡ギャラリー」への教育旅行客も増加中。

スーベニールオタルカン



頑丈な梁と柱を生かす



鉄柱上部



窓枠の鉄骨補強



柱にも意匠が



吹き抜けとし梁と天井を生かす



庇裏にまで気遣い



煉瓦壁に歴史が滲む



煉瓦壁露出がいい



煉瓦倉庫の壁と天井を生かす



回廊式売店



万華鏡ミュージアム



上げ下げ窓の空間